



全港湾中央本部は6月初旬、共謀罪法案審議の行方に大きな危機感を抱き、全国の地方本部及び各支部に対し、共謀罪廃案に関して、16日に緊急職場集会を開催するようとの指示を発令した。

本部指示に基づき大阪支部執行委員会は、16日夕刻より天保山公園において、「共謀罪廃止へ！緊急集会」の開催を決定した。

ところが開催前日の15日の早朝、国会・参議院では、自民・公明、維新が、法務委員会での採決を省略して、「中間報告」という禁じ手をもって、参議院本会議において、強行採決を行った。

支部では、夏期一時金業種別交渉の最中だったが、組合員ら約100名が結集し、緊急抗議集会を開催した。冒頭、樋口委員長は、「加計学園問題の陰に隠れて、共謀罪のことが連日報道されていたわけでもない。国民の注目をそらし、共謀罪を強行成立させた。森友・加計問題に見られる閣僚の隠蔽体質は言うに及ばず、特定秘密保護法から続く一連の強権的手法を非難し、その結果である反動諸立法の廃止」を訴えた。来賓として来られていた全日建連帯労組関西支部・武屋書記次長、全日建連帯労組トラック支部・柳生副委員長、土屋書記次長、港合同の中村事務局長、尼崎地区労・小西事務局長、武庫川ユニオン上

山委員長などが、共謀罪の強行採決に対する怒りや安倍首相の強権政治に対する非難を行った。

共謀罪は過去3回廃案になっていたため、政府は、「今回は対象犯罪を半分に減らした。テロ対策である。また国連の国際組織犯罪防止条約(TOC条約)の締結に不可欠である」などと訴えてきたが、すべて大ウソである。日本はテロ対策として国際条約や安保理決議が行われるたびに、迅速に国内立法を実施してきた経過もあり、現状の国内法で十分である。しかも、政治家、警察、大企業には甘い内容となっ

ている。

立法の狙いは、今後、アメリカとの共同での戦争遂行に反対する勢力、政府に異を唱える団体や個人を、「組織的犯罪集団」と決めつけて、弾圧することである。かつ、

適用は、警察の恣意的な判断である。

これが、司法取引制度、盗聴法や最新のIT監視技術と結びついたら、かつての治安維持法よりも猛威を振るいかねない。戦後民主主義社会は崩壊寸前である。

國分副委員長より共謀罪を始めとする全ての反動立法の廃止を求める団結ガンパローで締めくくりました。
(書記長 林)

青年部 だより

沖縄平和行進

貴重な体験をしました

青年部副部長 岡田 大

5月11日～15日の5日間、全港湾の一員として、第40回沖縄平和行進に参加しました。

沖縄到着後はすぐに、全国から来た全港湾の仲間と合流し、県内外から700人が結集していた、県立武道館での「5・15平和行進結団式」に参加しました。

結団式では、辺野古の闘いで不当逮捕され、現在裁判中の沖縄平

縄を残そうとの思いがひしひしと伝わってきました。少し残念だったのは関東、東北、日本海地本に比べ関西の参加者が少なかったことでした。

行進初日は、約19キロの道のりを全港湾が先頭で歩きました。コースは沖縄戦の激戦区で、未だ不発弾が残っている可能性があり、このため地下深く杭が打てなく、高

いきました。しかし、県民の参加が少なく感じた背景には、まだ、表立って本音を言いにくい現実があるのだろうと思いました。

その後、「瀬^せ嵩海岸」から「わんさか大浦パーク」までの2キロを、シュプレヒコールをしつつ、デモ行進をしました。行進が終わると、ガイドの案内で激戦の痕跡が残る嘉数高台公園にて、名前がわからない方も含めて、戦没者に黙祷を捧げました。また、「オリオンビールの星」「かりゆし」の意味なども教えてもらいました。

最終日は、大阪支部独自の活動で、キャンプシュワブゲート前での座りこみ、辺野古の海上行動に参加しました。ゲート前における搬入トラック阻止行動における機動隊との攻防は凄まじかった。搬入する沖縄ナンバーのトラック、基地を守る警官、基地建設に反対する人びと、同じ県民同士が対立する事に涙する警官もいたみたいで胸が熱くなりました。

初めて沖縄に来て、沖縄の戦跡地や基地の様子を、自分の目で見、足で歩いたことは、大変勉強になりました。

労働者のみならず、日本の国民一人ひとりが沖縄や米軍基地、戦争など、沖縄と日本の将来を考え、行動に移し、沖縄県民、日本国民の平和と人権を守るために、しっかりと活動するべきだと思います。支部の皆さん、組合員の皆さん、参加させていただいたことに、感謝申し上げます。ありがとうございました！



和運動センター山城博治議長の、安倍内閣の悪辣なやり方、憲法改悪、共謀罪、辺野古移設反対闘争などに対する熱いアピールに、明日からの行進に向けて、気合が入りました。

ホテルに戻り、全港湾、全国一般、全日建連帯の「三単産結団式」。戦中戦後の話では、20万人もの犠牲者を出した沖縄戦から72年、その爪痕は未だ癒えておらず、不発弾の後処理、新たに造られたり、拡張されたりしている米軍専用地のことなど、戦争は終わっていないと感じました。

アトラクションのエイサーや歌では、未来の子供たちに平和な沖

い建物が建てられないなど、戦争の影響が残っていました。

2日目は、大雨の中での行進でした。この日はレンジャー係をやらせてもらい、悪天候の煽りで苦しい時もありましたが、地域の人に手を振られて、頑張る事ができました。カミナリが激しくなり、事故の恐れがあるため、行進は昼で中止になりました。夜は沖縄地本でバーベキューがおこなわれ、全国の仲間との交流を深めました。

3日目は、大浦湾の瀬嵩（せだけ）海岸で「平和と暮らしを守る県民大会」が開催され、2200人が参加しました。日曜日だったので、関西の地域労組の仲間も参加して

ゴボウ抜きに遭遇

大正埠頭分会

高田 剛 士

11日から15日までの4泊5日で沖縄平和行進に初参加しました。

初日には全港湾参加者の顔合わせがあり、同じ世代の人が多かった事もあり、すぐに仲良くなれました。

2日目は19.2キロの初行進に参加し、レンジャーをさせていただきました。この日は、地上戦が激しかった地域を歩いたことが印象に残りました。かつて、ここで戦闘が行われ、多くの沖縄県民が亡くなった場所とは思えないほど整備されていました。沖縄県民でしかわからない戦争の恐怖を実感し、もう二度と戦争を起こしてはならないという気持ちでいっぱいでした。このためには、戦争に反対し平和を願う全国の人たちが団結し、戦争の恐怖がなくなるように声をあげ、なにより、米軍基地をなくさなければなりません。



3日目は朝から雨が激しく、行進は途中で中止になりましたが、雨の中でも、力強いシュプレヒコールが街に響き渡りました。

4日目は「復帰45年5・15平和とくらしを守る県民大会」が名護

市・瀬嵩^{せだけ}海岸で開かれました。今年「基地のない沖縄を」と書かれたハチマキを締めて参加しました。会場には、国内外から2200人が集まり、中には、韓国人や、中国人、驚いたことにアメリカ人も



居ました。集会は、米軍や自衛隊基地の拡大・強化に反対し、日米地位協定の抜本的改正を求める大会宣言を採択し、ガンバロー三唱で平和への強い意志を示しました。

しかし、その願いとは裏腹に目の前には、新基地建設のためのフロートや、大型作業船が浮かぶ厳戒の辺野古の海がありました。

5日目は、最も衝撃的な一日になりましたが、大阪支部独自の取組みとして、抗議船に乗っての海上行動、大浦湾視察、ゲート前座り込み現場に行きました。ゲート前では、ちょうど、炎天下の中、

座り込みしていた年配者が機動隊4人に両手両足を持ち上げられて、ゴボウ抜きされる場面に出くわし、痛そうにしていたのが衝撃的でした。

トラック運転手、機動隊員も皆、沖縄出身です。トラック運転手が悲しそうな顔をしていたのが印象に残りました。機動隊員は、任務として強制的にやらされている

者も少なくないそうです。

この光景を知っている人は日本に何人いるのでしょうか？年配の方たちが必死で戦っているのに私は呆然としてしまい、何もできませんでした。ですが、この光景を1人でも多くの人びとに伝えていく事が私の決意です。

沖縄平和行進に参加できた事で、たくさんの頼もしい仲間と出会うことができました。

沖縄に基地がなくなり、平和で静かな街が戻る日まで、私たちは闘い続けます。

訪韓団に参加して 各地の闘いを激励

萩原玄王 (大正埠頭分会)

日韓民主労働者連帯の日韓労働者定期交流・課題別訪韓が5月16～20日の5日間あり、関西の労組・団体を中心とした7名と通訳の鈴木氏を含む8名で、ソウル、全羅北道（全州、光州、益山）を訪問しました。

昨年11月の朴槿恵（パク・クネ）退陣！ロウソク革命から民衆の運動が大きく広がり、5月9日の大統領選挙においては、民主派の文在寅（ムン・ジェイン）大統領が圧勝しました。このような市民・労働運動を、日本の運動に繋げることができればと思っています。

17日の午前中、サムソン未来戦



▲パノリム籠城テント

略室前で抗議行動を展開している半導体労働者の健康と人権守り隊「パノリム」の籠城テント（588日目）を訪問。パノリムの活動は、労災の真相究明と補償獲得を第一目標とし、その他、サムソン労働者の労働三権獲得などを目的とし

て活動が続けています。

私たちが昨年11月、このテントを訪れた際、「戦いを続けるうえで、世の中から忘れられることが一番恐ろしい。日本でもこの活動を広めてほしい」と話されたことから、サムソンの労災事件の実録映画「もうひとつの約束」の上映会の準備を進めています。残念ながら、当該のファン・サンギ氏（被害者の父）とは会えませんでした。労務士のイ・ジョンランさんから現状報告と、政権交代で事態の進展があったことなどを聞き、来日の約束を交わして、終わりました。

映画「もうひとつ約束」

7月15日(土)13:00～

学働館にて上映

その後、日本大使館前で日本軍慰安婦問題「1283回水曜集会」に参加。1992年から毎週水曜日12時に開催し、日本政府に誠意ある謝罪と賠償を求めて抗議を続けている集会です。この日は大・高・中学生が多く、学校の課外授業の一環として小学生の姿もあり400名ほどの参加者でした。集会アピールの中で小学生が日本政府に対して誠意ある謝罪と賠償、正しい歴史認識を訴えていた時、日本の訪問団は心が痛みました。

全教組チョ・チャンイク委員長（趙文翼氏の実兄）らとの昼食後、KTX（日本でいう新幹線）で、全州へ移動し、大歓迎の中、交流を深めました。

共同宣言文

世界のすべての労働者・民衆は誰もが普遍的な人権を享受し平和に暮らす権利がある。

1. 全世界的に急速に広がっている右傾化の流れに積極的に対応し、東北アジア内の戦争危機の高揚に反対し、平和を定着するために努力する。
2. 各種の労働改悪と労働人権侵害に抗し、最低賃金引き上げ、非正規職撤廃、労働者の権利強化のために努力する。
3. 労働者・民衆の普遍的な人権強化のための社会公共性及び社会安全網強化のために努力する。
4. 「すべての労働者は一つだ」という社会的意識を強化し、移住労働者と在日韓国人の差別撤廃のために努力する。
5. 日韓の日本軍「慰安婦」合意等、両国間の望ましい過去史清算解決と歴史歪曲等に対して共同対応する。

今年は光州民衆抗争37周年です。また今年は、87年6月民衆抗争と労働者大闘争30周年です。日韓労働者は、労働者の権利と民主主義のため奮起した労働者・民衆の精神を受け継ぎ、27年間続いた相互信頼と尊重を基盤とした連帯意識を基に、上記の課題を実現するための共同の努力を続けることを厳粛に宣言します。

18日の午前中、日韓労働者共同宣言に向けての討論会を経て、共同宣言に至った経緯と趣旨の説明、宣言文内容についての確認の討論を行い、出席者全員で共同宣言文を確認・採択し、11時から記者会見に臨みました。（テレビ局1社、新聞社3社）

課題別交流主題討論会

午後からは、課題別交流討論会が開催され、韓国側からは「ロウソク闘争以後の課題」にいて、日本側からは「日本の政治・社会状況と労働者の課題」について、それぞれが報告を行いました。

質疑では、韓国側から森友学園問題で、「地域の労働組合から声明文などの抗議行動はなかったのか」との質問が行われ、日本側は、「豊中市議を中心に抗議行動を行ったが、労組としての行動には至っていない」と回答。韓国では、地域問題に関しても民主労総が中心にデモ・声明などの抗議行動をk行っている。声明文だけで代議員大会資料は100ページにもなるので、またもや耳の痛い話が



▲ アジアスワニー工場跡

出されました。この他に、格差問題、労組と幹部の在り方などについて、多くの意見交換がなされました。

3時からは益山（イクサン）に移動し、「歴史を振り返る」との趣向で、アジアスワニー工場跡（現在は他企業が所有）、闘争現場などを、アジアスワニー同志会事務局長の案内で巡りました。工場跡地の説明では、企業は2回変わったが、建物の配置は当時のままとの説明。スワニー闘争の記録DVD映像と重なり、当時の闘争の様子がわかるリアルな体験で、労働運動と市民運動の連帯の重要性をあらためて確認しました。

望月洞墓地を巡礼

19日午前中、光州（クァンジュ）

の望月洞（マンウォルドン）墓地に巡礼。前日に光州民主化運動記念式典が開催され、新政権ムン・ジェイン大統領が出席、真相究明と民主化運動とロウソク革命の精神を受け止め、民主主義の復元を約束するとあいさつを行っていました。



▲ 望月洞墓地

私たちは旧墓地の全州のバス闘争で亡くなったチン・ギスン烈士の墓の前で、バス闘争とチン・ギスン烈士がなくなった経緯の説明を受け、5・18民主化闘争の経緯と意義の話を聞き、「あなたのための行進曲」を参列者全員で歌い、民主化運動、労働運動烈士の冥福を祈りました。

夕方、ソウルに移動し、夕食を交えてソ衣労の組合員と交流し、全日程を終えました。

短期間でしたが、充実した訪問ができたと感じています。

全北本部との討論会、仲間との交流を通じ、改めて多くのことを学ぶことができて、今後の活動の糧として、日韓労働者交流運動の拡大と、双方の運動の発展を、とくに日本における民主社会の再構築をめざして、運動を続けていきます。



2017団結学校開催！ 「全港湾」を学ぶ

大阪支部団結学校が6月25日(日)、教宣部主催、執行委員及び組合員48名が参加して、開催されました。

支部は毎年この時期、過去1年の間に新加入した組合員を対象に、全港湾の歴史や運動方針、各取組み、専門部の紹介などを学習しています。

第一講座では、大野 進中央本部副委員長・関西地本委員長)から、全港湾の結成から現在までの主な闘争や運動について、

第2講座では、樋口万浩大阪支部執行委員長から、過去10年間で大阪支部に加入した分会の立ち上げの経緯や闘争報告を話して頂きました。

第3講座では、吉本賢一支部執行委員が、全港湾の運動から学んだことや労働組合の存在意義を熱く語りました。

最後の閉会あいさつでは、國分仁昭支部副委員長が「労働組合は働く者にとって、なくてはならないもの。一人ひとりがバラバラでは出来ないことを、労



働組合を軸に、みんなの力で実現させて行くことが基本である」と、締めました。

毎年50人以上がこの団結学校に参加できるように組織拡大を強化していきます。

教宣部長 陣内恒治



組織強化拡大討論集会をおこないます

1977年の5支部統合後、40周年を迎えましたが、わが大阪支部も、他の産別と同様、組合員数の減少により、組織拡大が緊急の課題となっています。併せて組織強化も重要です。また、組織拡大に対応できる体制(人材、活動時間、意識性等)が整っていないかもしれません。各分会間の意見交換や議論を深め団結するためにも問題を共有し、大衆的に解決を図り強化につなげたいと思います。

8月上旬にアンケート調査を実施し、その結果を基に、討論集会を企画しています。もちろん当日、幅広い提案や意見も聞きながら「まとめ」ではなく、整理をして次のステップにつなげたいと思います。

日	時	2017年 8月26日(土) 9時 ~ 27日(日)正午 まで
場	所	ホテル クライトン
参 加 者		各分会 1名(基本分会三役) 大会代議員数に準ずる+執行委員
参 加 費		5,000円/1名
アンケート配布		7月上旬
アンケート回収		8月1日厳守(ファックスでも可)

※なお、毎年行っている労働学校は来年行う予定です。